

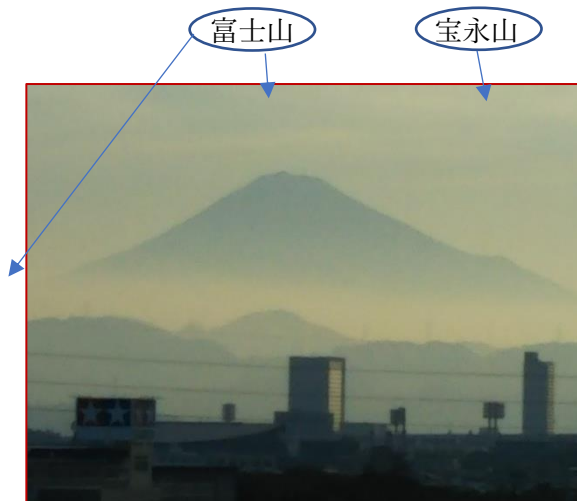
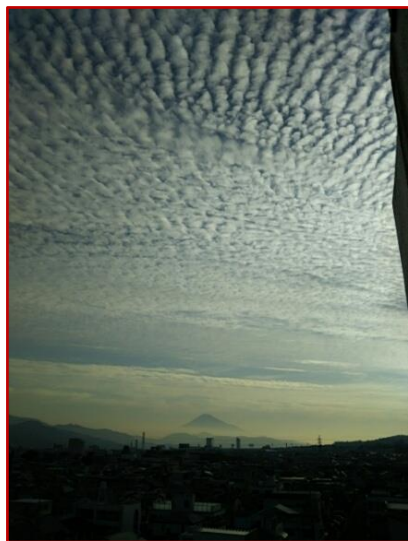
ケナフ協議会の現状報告について

ケナフ協議会会長（高知大学名誉教授） 鮫島一彦

令和2年（2020年）6月15日（月曜日）

ケナフ協議会の運営、活動実施等にご協力いただいている皆様への現状報告です。正会員はもとより、昨年度、年会・財政支援そのほかの活動への協力をいただいた団体・個人、あるいはこれまでケナフ協議会にご協力いただいている非会員の方々への現状をできるだけ簡潔にお知らせします。

本来、ケナフ協議会ニュースの6月号を発行してお知らせすべきところですが、新型コロナウイルスの感染予防のために、静岡の自宅に釘付けになっています。毎日がテレワーク中心になっています。本報告で代用です（涙）。多くの方も同様なテレワークをして過ごしていることでしょう。不幸中の幸いで、私の自宅のある静岡県は適当に田舎であり、外出制限は世界の多くの大都会や観光地よりはかなり温和なものになっています。東京、大阪、福岡、名古屋、札幌など多くの都会に、ケナフ協議会の正会員（企業、団体、個人）および支援していただいている非会員の企業・団体・個人が数多く在住し、活動しています。私のテレワークで知る限りでも、大変苦勞している様子が伝わってきます。皆様のご苦勞によって、ケナフ協議会はもとより、島国日本の6852の島々も何とか凌いでいる状態です。深くこころより皆様のご苦勞に敬意を表します。



（写真左：鮫島撮影、2020/06/10）自宅（静岡）のあるマンションの7階から早朝に見られた珍しい「様々な形」の雲のひろがり中央の下部に小さな富士山が見える。（富士山を拡大してスマホで撮影したのが、写真右）。ほとんど毎日いろいろの姿を見せたり、見せなかったり！老後の楽しみをコロナが教えてくれました（笑）。

さて、新型コロナウイルス感染拡大回避のため、令和2年度のケナフ協議会の活動はほとんど停止しています。ケナフ協議会ニュースの発行は2020年4月号（第320号）以降休止しています。令和2年度の植物資源利用研究会・講演会の開催は、例年どおりの実施が困難であるため休止する案が執行部（専務理事と会長・副会長）から提案され、令和2年度の第一回理事会を5月28日から書面で実施、6月5日に評決が行われ承認されました。理事会では、①令和元年度の活動報告及び決算報告が了承され、②平成2年度の通常総会は、正会員全員に郵送で事前配布し、6月25日に評決する。③ケナフ協議会の今後の方向性を令和2年9月末までに決める。④令和2年度の会費は徴収せず、令和2年4月以降にいただいた寄付金は返却する、などの方針が決まりました。総会での正会員の承認を得て、③の今後の方向性の検討が始まることになります。是非ご了承ください。

会長鮫島一彦個人としては、令和2年の9月末日までに、コロナ後の社会を支えるケナフ協議会の活動の方向性が、次世代を中心にしてまとまることをこころより願っています。コロナ後の世界では「ケナフ等植物バイオ資源の活用による地球環境保全のモデル事業」の推進が重要であり、ケナフ協議会とその支援していただいている方々のこれまでの成果が活かされるはずで、海外からも、メールでの問い合わせも多数来ていますし、今後も継続・進展が期待されます。今後とも、皆様のご意見、英知を提供してもらいながら、より良い未来を築くための活動を持続させましょう。情報革命の中、未来と夢を描けるケナフ協議会の組織改革案が新鮮な若い感覚でまとまることを願っています。

ちなみに、この2020年6月12日、今年環境白書が閣議決定されたと報道されました。最近の気象災害について「**気候危機**」ということばを初めて使い、地球温暖化対策の必要性を強調しています。昨年の台風の各地での大雨で多数の犠牲者が出たこと、一昨年の猛暑で9万5000人が熱中症で救急搬送されたことなどを示し、もはや単なる「気候変動」ではなく、近年の気象災害の激甚化は地球上のすべての生物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」の状態と記述しています。閣議の後の記者会見で、小泉環境大臣は「環境省として『気候危機宣言』をしたい。新型コロナウイルスの危機に覆われているが、気候危機を忘れてはならず、多くの人と危機感を共有し、温暖化対策を強化していきたい」と述べたと報道されました。

（出典）<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200612/k10012468031000.html>

環境白書に初の「気候危機」地球温暖化対策の必要性強調 2020年6月12日 13時25分

昨年2019年11月にアメリカ木材科学技術学会（SWST）の国際会議はカリフォルニアのヨセミテ国立公園近くの国際ホテルで開催されました。ヨセミテは世界的な環境保護運動の発祥の地として知られています。しかし、この国際会議では、カリフォルニアの例年になく森林火災の消火活動に携わる消防士の特別講演が行われました。我々鮫島夫妻の帰国時には、サンフランシスコ空港は森林火災のため閉鎖され、かろうじてロスアンゼルス空港経由で帰国できました。現在であれば、コロナの関係で帰国もできなかったことでしょう。神様に感謝です（笑）。

上海の程舟先生の娘さんはポストドクとして、現在シドニーに在住しています。メールでの私への報告では、オーストラリアの森林火災も例年になくひどく、シドニーも大きな影響を受けているとのこと。ネットで調べてみた結果、諸説ありますが、最も大きな要因はヒト（人類）の行き過ぎた経済活動による気候変動にあると考えられています。以前は、北半球にあるカリフォルニアの森林火災と南半球にあるシドニーの森林火災は発生時期がずれていました。しかし、このところ連動するようになり、しかも長期に及び、お互いの消火活動への協力体制が組めなくなってきた。即ち、日本の環境省の言う「気候危機」の状態、地球が燃え始めているのです（涙）。私が初めてオーストラリアを訪れたのは国際的なケナフ事業に奮闘していたカルダー氏が事務所を構えていたシドニーでした。カルダー氏は日本にもたびたび来て講演などをしてもらいました。ケナフ協議会のメンバーなど日本で初期に使用したケナフ種子（G-7）サンプルは、カルダー氏から寄贈を受けたものでした（万歳！）。オーストラリアでのケナフ栽培を日本の成果・哲学を加えながら協働事業として再び地球環境保護運動として再開できることを願っています。

ケナフ協議会は、環境庁（当時）を中心にしながら、多くの団体との地球温暖化防止を目標とする協働組織として1991年に設立されました。当時の初心を忘れず、新たな気持ちで「ケナフ等植物資源による環境保全活動を強化する」必要があります。コロナ危機の中ですが、「ケナフ協議会」がズームやツイッターなどのIT技術等を駆使したテレワ



ークの導入などで国内外の仲間と地球環境保全の可能性を探るとともに、持続可能なプラットフォーム組織としての「新生ケナフ協議会」として生まれ変わることが必要です。会員、非会員、老若男女を問わず、すべての皆様の知恵が生かされるように、大きく変身しましょう。

(K.Sameshima2020/06/15)

(写真左:2020年6月2日、静岡市駿河区の子鹿おしか公園付近)毎日の早朝ウォーキングコース(自分流)で見つけたタチアオイ *Alktaea rosea* の花。アオイ科ピロードアオイ属の多年草、薬草、静岡市の花として制定され、市内のあちこちに植えられている。但し、水戸黄門や徳川家の家紋の葵あおいはまったく別の植物でウマノスズクサ科。しかも普通はハート型の葉を二つつける。家紋の三つ葉は昔の職人が創作デザインした架空のもの(びっくり?)。実際の葵は地味で花は小さく下向きでシンボルとしては不向きなので、静岡市はタチアオイを採用。(写真右:6月6日、同じく小鹿公園付近の古い民家のタチアオイの繁茂の様子。)コロナのおかげで毎日各戸の庭や花や植物の変化を楽しみ、良心市では地域の数々の野菜や柑橘類や果物を楽しむことができます。(静岡市万歳!) ちなみに、ケナフ *Hibiscus cannabinus* は人類とともに世界に広がったアフリカ原産のアオイ科フヨウ属の繊維作物、韓国の国花ムクゲ *Hibiscus syriacus* もアオイ科フヨウ属の落葉広葉樹です。